

ゲスト講師

牛島光太郎 (美術作家)



1978年八女市生まれ。2010年「意図的な偶然」(三菱地所アルティウム)、2014年「scene のつくり方」(Gallery PARC)等の個展や、2014年「イマジネーション・スーパーハイウェイ」(京都芸術センター)などのグループ展に参加。ドイツ、台湾、ニューカレドニア、中国などでアーティスト・イン・レジデンス。2016年8月まで、大阪府茨木市でアートプロジェクト(HUB-IBARAKI ART)を実施中。

白水高広 (株式会社うなぎの寝床代表取締役)



大分大学工学部福祉環境工学科建築コース卒業。卒業後、筑後地域の商品開発やブランディングを行なう「九州ちくご元気計画」の主任推進員として経験を積む。2012年、うなぎの寝床を立ち上げる。販売だけではなく、調査研究も含めた、地域の文化、技術などを掘り起こしながら、様々な人々、会社、行政ともコミュニケーションをとり事業を推進。企画・デザイン・商品開発・撮影・調査研究等、幅広く活動している。

企画運営

中村美亜 (九州大学大学院芸術工学研究院准教授)



専門は芸術社会学。エンパワメントや社会環境の変容を促すアート実践の研究を行っている。東京芸術大学卒業後、米国ミシガン大学大学院などで音楽学と文化研究を学ぶ。学術博士(東京芸術大学)。著書に「音楽をひらくアート・ケア・文化のトリロジー」(水声社、2013年)など。ジェンダーやセクシュリティに関する著作も多い。ソーシャルアートラボ副ラボ長。

高坂葉月 (九州大学大学院芸術工学研究院学術研究員)



東京芸術大学、インスブルック大学にて、マラーの作品を研究。異質な要素が共存する音楽のあり方を、作曲時の社会的・文化的背景から読み解く研究を行ってきた。現在は、批評活動も行っている。音楽学博士(東京芸術大学)。2014年より九州大学で「HME 養成講座」「芸工パフォーミングアーツプロジェクト」等の企画運営に関わる。2015年4月よりソーシャルアートラボ事務局長。

コース担当講師

尾本章 (教授・応用音響工学、ソーシャルアートラボ長)、知足美加子 (准教授・彫刻)、朝廣和夫 (准教授・ランドスケープ)、

藤枝守 (教授・作曲)、池田美奈子 (准教授・情報編集デザイン)

お申し込み方法・ 記載事項

下記の項目を記載のうえ、メール・FAXのいずれかよりお申し込みください。
また、ソーシャルアートラボ公式ホームページ内「CONTACT」からもお申し込みいただけます。締切は6月23日(木)です。
①氏名(フリガナ) ②電話番号 ③メールアドレス ④所属
⑤活動歴(これまでの地域づくりやアートマネジメントについての経歴があれば簡潔に記載してください)
⑥年齢 ⑦参加の動機

お申し込み・ お問い合わせ

九州大学ソーシャルアートラボ

TEL & FAX 092-553-4552
E-mail sal@design.kyushu-u.ac.jp
URL http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp
Facebook https://www.facebook.com/SAL.Design.KU/



小森耕太 (NPO法人山村塾事務局長)



1975年福岡市生まれ。九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。大学時代に山村塾の活動と出会い、2000年4月から山村塾事務局スタッフとして八女市黒木町に移住。以後、地域の農林家と連携し、里山保全活動、都市農山村交流活動を企画運営してきた。現在は、平成24年7月九州北部豪雨災害を受けた地域の復興を目指し、笠原棚田米プロジェクトの取り組みに力を入れている。

ジェームズ・ジャック (アーティスト)



アメリカ出身。瀬戸内国際芸術祭、釜山ビエンナーレ・シアートフェスティバル、シンガポールの Institute of Contemporary Art 等のグループ展で、社会と深く関わるプロジェクトを多数展開。論文や著作は、『ISSUE』『ジャパントナイズ』『モダンアートアジア』『アートアジアパシフィック』等に掲載された。2008～2010年、明仁皇太子奨学金フェロー、2015年にはシンガポールの Centre for Contemporary Art の招待作家。

長津結一郎 (九州大学大学院芸術工学研究院助教)



専門はアートマネジメント、芸術と社会包摂。学術博士(東京芸術大学)。障害者の表現活動を主たる研究対象とし、異なる立場や背景をもつ人々がどのように協働することができるのか、研究/実践の双方からのアプローチを試みている。ワークショップの開発や協働の場づくりについても関心を寄せている。これまで関わった主なプロジェクトに「東京迂回路研究」「近所イノベーション学校」などがある。2016年4月より現職。

猪股春香 (アートマネージャー)



大阪にてアーティストインレジデンスやアートの管理・運営、舞台公演の企画・制作を行う。東京にて東京アートポイント計画「三宅島大学」のマネージャーを経て、2013～15年(公財)福岡市文化芸術振興財団にてNPOとの共同企画、人材育成事業を担当。さまざまな土地の“おかみ役”としてアーティストや研究者を迎え入れ、領域を越えてコーディネートを行う。2016年、企画事務所春々堂を開業。

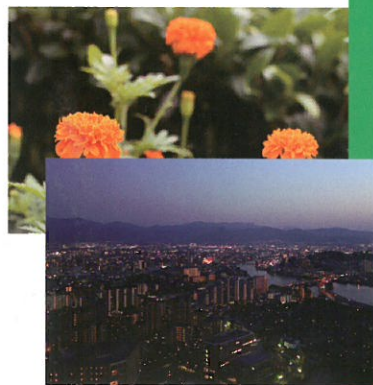
開講期間

2016.6 - 2017.3

「地域づくりとアート」実践プログラム

受講生募集!

FUKU OKA X YAME REMIX



主催：九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ
共催：公益財団法人 福岡市文化芸術振興財団
後援：日本アートマネジメント学会九州部会
協力：NPO法人山村塾、ラプエフエム国際放送株式会社、(株)うなぎの寝床
助成：平成28年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

「地域づくりとアート」実践プログラム

FUKUOKA × YAME REMIX

produced by 九州大学ソーシャルアートラボ

地域づくりにアートは果たして有効なのでしょうか？アートは地域の新しい魅力を引き出したり、活性化させたりする「仕掛け」になる一方で、アートをそうした仕掛けとして機能させるのは簡単なことではありません。九州大学ソーシャルアートラボは、これまでの実践や研究を通じて、地域とアートを結びつけるのに必要なのは、地域をいかす「編集」スキルではないかと考えるようになりました。「地域づくりとアート」実践プログラムは、「バスツアー」と「まちあるき物産展」からなるアートプロジェクト「FUKUOKA × YAME REMIX」の企画・運営を通じて、この編集スキルを身につける場です。第一線で活躍する講師や受講生、地域の人たちと考え、対話し、ともに動きながら、学んでいきませんか？



実施イベント

A アートの視点を取り入れた「バスツアー」

福岡から八女を訪れ、普通の観光とは一味違う体験を楽しむバスツアーを企画します。

八女出身のアーティスト、牛島光太郎さんや地域の人々と関わり、

地域の魅力をかたちにして伝えることを通じて、プロデュース方法を学びます。

ゲスト講師：牛島光太郎（美術作家）、小森耕太（NPO法人山村塾事務局長）ほか

B アートの視点を取り入れた「まちあるき物産展」

八女の自然や文化を福岡市内の複数会場で楽しむことができる「まちあるき物産展」を企画します。

八女の魅力について知ることから、福岡市内の会場探し、

展示や上演の方法を考えることを通じて、地域と地域をつなぐ新しいキュレーションの方法を学びます。

ゲスト講師：白水高広（株式会社うなぎの寝床代表取締役）、ジェームズ・ジャック（アーティスト）ほか

対象・定員

- ・対象：文化事業や地域づくりに携わっている方・将来携わりたいと考えている方
- ・開講期間を通して、このプログラムに関われる方（※部分的に関わることも可能です。関心のある方は事務局までご相談ください。）
- ・受講生は、オリエンテーション、合宿に参加したのち、それぞれのイベントの準備をしていきます。
- ・定員：30名

参加費

5,000円（合宿実費）

PROGRAM

※プログラム内容・日程などは、諸事情により変更する場合があります。

オリエンテーション	6/26 (日) 10:00-17:00	九州大学大橋サテライト「ルネット」
合宿	7/9 (土) - 10 (日)	八女市黒木町笠原「えがおの森」ほか
プロジェクトミーティング	7月後半より月2回程度実施（※）	
イベントA実施：バスツアー	10/15 (土) - 16 (日)	八女をめぐるバスツアー
イベントB実施：まちあるき物産展	2017. 2/4 (土) - 12 (日)	福岡市内での物産展
ふりかえりフォーラム	2017. 3/4 (土)	会場未定

※グループごとに進捗を報告し、教員やスタッフからフィードバックを受けます。専門分野の講師によるレクチャーも行います。テーマは「地域の魅力発見」、「広報」、「資金調達」、「記録」、「市民との協働」などを予定しています。講師や日程などは、追ってウェブサイトでご案内いたします。



SCHEDULE



■ 受講生への推奨プログラム

公開講座「地域づくりとアート：『編集』の視点から再考する」

・第1回：地域をいかす編集 6月11日・12日

・第2回：地域をひらく編集 7月30日・31日

この講座は有料です（要事前申し込み）。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

<http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/artmanagement.html>

九州大学ソーシャルアートラボ

九州大学ソーシャルアートラボは、社会の課題にコミットし、人間どうしの新しいつながりを生み出す芸術実践を「ソーシャルアート」と捉え、その研究・教育・実践・提言を通じて、新しい生の価値を提示していくことを目的とします。ここでは「アート」を美術分野に限定せず、広義の芸術を示す総称として用い、作品という側面だけでなく実践的側面も重視しながら、環境デザイン、テクノロジー、マネジメントの観点からの総合的アプローチを試みます。

平成27年度からは、文化庁大学を活用した文化芸術推進事業の一環で、「新しい交流の場を切りひらくアートマネジメント人材育成事業」に取り組んでいます。九州沖縄地域では人口減少による地域の経済的・文化的基盤の脆弱化、それに伴う伝統文化の担い手不足、自然環境保全システムの弱体化が深刻な問題となっています。このような課題に対し、新しい発想と手法で、地域を元気にする人材を育成し、地域の活性化や地域間交流を促すことを目的としています。

